

福島子ども健康プロジェクトだより

Vol.2

新しい日常への道のり

3.11の大震災・原発事故が、人の「からだ」、「こころ」、「きずな」に長期的にどのような帰結をもたらすのか。福島子ども健康プロジェクトは、福島県中を通り9市町村で子育て中のお母さんたちの生活体験を記録として残すために、2013年から毎年1月にアンケート調査、3月と8月にインタビュー調査を行ってきました。アンケート調査では、その時々のお子さんやお母さんの生活の様子と健康状態、地域での生活などについてたずねています。時が経つにつれ、親子の暮らしと健康はどのように変化していくのか、お子さんが成人するまで定期的に記録し、次の世代に伝えていくことが、その目的です。大震災・原発事故という非日常から新しい日常への道のりを、生活記録づくりを通じての伴走です。どうぞよろしくお願い申し上げます。

2019年7月1日
福島子ども健康プロジェクト

福島市・郡山市・二本松市・大玉村を訪問しました。(2019/3/16~19)

ペップキッズこおりやま



福島駅前にて



福島市内の運動公園





活動記録(2018.4～)

(下線のあるものは、福島子ども健康プロジェクトのホームページからダウンロードしてご覧いただけます)

- 2018.4 NHK 福島「おはようふくしま」に当プロジェクトの調査研究が紹介。
- 2018.4 『中京大学現代社会学部紀要』に「原発不安に関する考察」、「福島原発事故から『新しい日常』への道のり」、「持続する不安、前向きな態度」を掲載。
- 2018.5 第6回調査報告書を作成し、調査対象者、福島県庁、9市町村役場、報道機関に送付。
- 2018.6 愛知県被災者支援センターで行われた第164回パーソナルサポート支援チームの学習会で、「福島親子の新しい日常への道のり:福島子ども健康プロジェクトの追跡調査から」という題で講演。
- 2018.7 福島大学で行われた「第4回原発と人権集会」で、「予防的回避によるケイパビリティの制約と共同性の喪失:区域外原発事故被害の核心」という題で調査結果を報告。
- 2018.9 新潟県庁で行われた「第4回新潟県原子力発電所事故による健康と生活への影響に関する検証委員会」で、「原発事故後の親子の生活と健康に関する調査について」という題で調査結果を報告。
- 2018.9 甲南大学(兵庫県)で行われた第91回日本社会学会大会で、「福島親子の『新しい日常』への道のり2018:家族の経験を中心に」という題で調査結果を報告。
- 2018.10 『中京大学現代社会学部紀要』に「風化する日常のなかの将来の健康不安」、「予防的回避によるケイパビリティの制約と共同性の喪失」を掲載。
- 2018.10 中京大学現代社会学部紀要の抜刷(「風化する日常のなかの将来の健康不安」)を調査対象者、福島県庁、9市町村役場、報道機関などに送付。
- 2018.11 明治大学(東京都)で行われた、「ふるさとの喪失/剥奪」被害調査研究委員会で、「予防的回避によるケイパビリティの制約と共同性の喪失:避難区域外原発事故被害の核心」という題で研究成果を報告。
- 2018.12 文京シビックセンター(東京都)で行われた第22回原子力市民委員会で、「原発事故後の親子の生活と健康にみるストレス:中通りでの継続的アンケート調査から見てきたもの」という題で調査結果を報告。
- 2018.12 調査対象者の子どもたちにクリスマスカードを送付。
- 2019.1 第7回アンケート調査を実施。
- 2019.3 福島市、郡山市、二本松市、大玉村でアンケート調査対象者にインタビュー調査。
- 2019.4 日本学術振興会より科学研究費の交付内定通知(今後4年間福島調査継続が認められる)
- 2019.4 第7回調査報告書を作成し、調査対象者、福島県庁・9市町村役場・環境省・復興庁など行政機関、大学・報道機関などに送付。
- 2019.5 「福島^①の記憶を未来に:『親子をつなぐサポートブック』と当事者語り部活動」が、トヨタ財団研究助成プログラムの助成対象に決定(2021年4月までの2年間)
- 2019.5 愛知県被災者支援センターで行われた第186回パーソナルサポート支援チームの学習会で、「風化する日常の中の将来不安:福島子ども健康プロジェクト2019年調査から」という題で講演。
- 2019.6 名古屋YWCA 3・11つながるプロジェクト主催の講演会(名古屋YWCA2階ビックスペース)で「なぜ私たちは福島に関わり続けるのか」という題で講演。



家族の記憶を、未来へ贈ろう。

親子をつなぐサポートブック

『GIFT BOOK』づくりに 参加しませんか？

3.11 後の困難な時期をどう乗り越えてきたのか。
そのとき、なぜそのような行動をしたのか。
面と向かっては話せなかった当時の心境や家族の
これまでの歩みを、わが子に伝えておきたい。



こうしたお母さん・お父さんの想いに応え、少しでも力になりたいと考えた私たちは、今回、「親子をつなぐサポートブック『GIFT BOOK』制作プロジェクト」を立ち上げました。家族で話し合いながら記録するコミュニケーションブックとして。他の家族と語り合い、さまざまな想いを共有するためのツールとして。10年先、20年先の家族への贈りものとして。わが子の誕生や成長、東日本大震災・原発事故後の暮らし、そして「今」と向き合い、かけがえのない記憶を未来に語り継いでいく、その第一歩になることを願っています。



『GIFT BOOK』のねらい

1. わが子の成長を記録。

生後間もない頃からのわが子の成長を振り返り、その日々の尊さ、親子の愛情を再確認します。

2. 親の想いを伝える。

なかなか口に出せない想いを書き出し、いま・これからを生きるわが子への言葉をまとめます。

3. みんなで語り合う。

各家庭の「3.11 後」を語り合い、想いを分かち合うためのキッカケとしても役立ちます。

参加のステップ

1

同封のハガキに必要事項を記入し、返送してください。



2

『GIFT BOOK』フォーマットと返信用封筒をお送りします。



3

フォーマットに記入してください。



4

返信用封筒にフォーマットを入れて、返送してください。



5

製本された『GIFT BOOK』が届きます。フォトスペースに写真を貼り、ご家族みなさんでいろいろな話をしながらご覧ください。



TOPICS

福島の子の声を伝える記事が、
さまざまな新聞に、掲載されました

聖教新聞 (2019. 1. 24)

原発災害からの再生

福島県中通りの親子へ調査を継続

原発事故後の生活変化

不安、ストレスが分断を生む
心の救済、つながりの回復が必要

東京新聞 (2019. 3. 14)

**モニタリングポスト撤去
福島の母親65%反対**

中京大教授調査

「いじめ差別」不安続く

結果は授業の題材に

中京大教授が追跡調査

読売新聞 (2019. 4. 11)

余論

2019. 5. 5

福島の母の不安

熊本日新聞

熊本日新聞 (2019. 5. 5)

おたより広場

いろいろな気持ちを伝えあおう！

保護者の方からの声

こちらのアンケートを拝見させていただくと、同じような意見の方もいらっしゃるの、とても安心いたします。本音を話す方は福島ではタブーな感じすらあるので、他のお母さん方の意見を知れるので、ありがたいです。ありがとうございます。

(福島市の T さん)

みなさまからのお便りや
ご意見をお待ちしています。
下記までお寄せください。

福島 子ども健康 プロジェクト

〒470-0393 愛知県豊田市貝津町床立 101
中京大学 成元哲研究室

TEL & FAX : 0565-46-6516 (直通)

E-MAIL : sungwonc@sass.chukyo-u.ac.jp

HP : <https://fukushima-child-health.jimdo.com/>

*このリーフレットは、トヨタ財団研究助成プログラム(D18-R-0325)により作成しています。

